



支援プログラム取組内容

（ 児童発達支援 ）

5領域の支援内容は、お互いに関連して成り立っており、重なる部分もあります。この「本人支援」の大きな目標は、障害のある子どもが、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものであるとされています。以下の5領域は支援プログラムに反映しています。

- ① 「健康・生活」心身の健康や生活に関する領域
- ② 「運動・感覚」運動や感覚に関する領域
- ③ 「認知・行動」認知と行動に関する領域
- ④ 「言語・コミュニケーション」言語・コミュニケーションの獲得に関する領域
- ⑤ 「人間関係・社会性」人との関わりに関する領域



児童発達支援 （発達支援（本人支援及び移行支援）家族支援、地域支援）

【集団活動プログラム】

コミュニケーション能力や日常生活動作の向上を中心に、就園・就学に向けた療育を行います。

（目的）

- ・体力づくりやストレス発散に繋がる運動の機会を設ける
- ・社会性を育む
- ・コミュニケーション能力の獲得を目指す
- ・自身が活躍する場面をつくる
- ・土地勘を身につける

（活動内容）

- ・音楽に合わせて体操等を行う
- ・当番やお手伝いの体験
- ・行事に合わせた作品づくり
- ・散歩や地域探索

【個別活動プログラム】

個々のニーズに応じて、就園・就学に向けた療育を行います。

（目的）

- ・ 日常生活動作、生活スキルの向上に繋がる力を身に付けられるような課題設定
- ・ 目標をもうけ、達成することで自己肯定感を高める
- ・ 興味が湧くような本人に合った課題設定
- ・ 本人の好きな活動を増やす
- ・ 本人の苦手を克服できるような課題設定
- ・ 余暇活動で日々の生活の充実をはかる
- ・ 保護者様と密な連携を取り、ニーズに合わせた療育を提案する

（活動内容）

- ・ 感覚を楽しむおもちゃや想像を刺激するおもちゃなどを使って遊ぶ
- ・ ボタン留めやファスナーの開け閉めなど日常生活動作に必要な課題づくりを行う
- ・ タイマーやアナウンスを使い、本人が理解しやすいような時間や場面の切替を行う
- ・ パーテーションなどを使って本人に合った環境を提供し、集中して課題に取り組めるよう支援する
- ・ 絵カードなど、本人に合ったコミュニケーション方法を取り入れる
- ・ 本人が自由な活動をできる時間を確保する
- ・ 保護者へのアセスメントやモニタリング以外で、定期的に懇談を行う

令和6年4月作成